# 万国外科学会（ISS/SIC）日本支部ニュース

News of Japanese Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部
〒213-8507　神奈川県川崎市高津区溝口 3-8-3
帝京大学医学部附属 溝口病院外科
TEL：044-844-3333(内線3223) FAX：044-844-3222
発行者：山　川　達　郎
編集責任：万国外科学会(ISS/SIC)日本支部広報担当委員・村田宣夫（帝京大学溝口病院外科）
印刷：株式会社 dig　TEL:03-3551-3060
年２回発行1995年4月創刊


## ご挨拶

国際医療福祉大学副学長・
三田病院院長
President ISS/SIC
Congress President ISW2007
**北島　政樹**


第42回万国外科学会が８月26日より30日まで５日間、カナダのモントリオールで開催された。

前回は2005年に南アフリカのダーバンで開催され、学会前から日本部会の会員の皆様は外務省海外安全ホームページの渡航情報などを見て、治安の悪さに不安感を抱いていたが、今回のモントリオールではほとんど心配する必要がなかった。特に８月下旬のモントリオールは１年の内で最も気候が良く、多くのフェスティバルが開催され市全体が活気づくと云われていた。

本来、私がダーバンで会長として主催する予定であったが、2003年のタイのバンコクの学会が世界的に猛威をふるったSARSの為に延期になり、ジーベルト会長（元ドイツ外科学会会長）がダーバンで主催することになったわけである。

２月にボストンでNEJMの編集委員会があり、帰途、モントリオールを訪れ、コンベンションセンター、ホテル、会長招宴の場所などを視察したが、息苦しいほどの寒気であり、８月の会期が想像も出来ないほどであった。

さて、本学会には総会の会長とLOC（Local Organizing Committee）の会長がおり、その連携が重要であり、二人のカナダの会長 Beauchamp 教授とLafrenière 教授がいて、人間的にとても温厚な人々であった。また、PCO（Professional Convention Organization）―すなわち学会を請負う会社Opus 3があり、今回はスポンサーまで集めるということであった。しかし、スポンサーがなかなか集まりそうもなく、私自身も学会運営には健全な財政が必要と思い、前回のジーベルト会長に習い、スポンサーを集める事とした。

特に今回は日本の企業のご支援を賜ったが、今まで医学会を支援した事のない世界のトヨタにもご協力をお願いした。これも一重に社長が大学の同学年であり、普段より親交があった為と、今さらながら人脈の大切さを痛感した次第である。会長招宴は私の希望通りにモントリオール市街が一望できる丘の由緒ある建物で行われ、多くの海外の友人と旧交を温めることが出来た。バッゲージの紛失騒ぎで、Tシャツ姿で来られた友人のハンガリーの教授もいたが、友情を大切にしたいという言葉に感激した。

さて、4 integrated societies 及び14 participating societiesとのプログラムの調整、式次第の作成など順調に進み、学会前日の理事会に引き続き、夕刻より開会式が厳粛の中にもなごやかな雰囲気で取り行なわれた。

今回、万国外科学会賞には、友人であり、前々会（ベルギー）の会長であった Sir Peter Morris が選ばれ、また長年に亘って学会の副会長、理事として発展に貢献された比企能樹先生が名誉会員に選任され、盾を手渡した時に、やっと総会の会長であるということを認識した次第である。

会期中は天候にも恵まれ、50か国から多くの人々が参加してくれたが、LOCの力不足か、国内の学会が重なったのか、カナダからの参加者が少なかったことが多少残念であった。

会長として過密なスケジュールの合間に多くのシンポジウム、ビデオセッションでの活発な討論を楽しむ事が出来、さらに Gala-dinner では優秀ポスター賞や Lloyd M. Nyhus Prize に日本部会の会員が選考された事は多いに喜ばしい事であった。また会長として工夫を凝らし、大阪での世界陸上におけるポスターの侍の顔に過去の会長および事務局スタッフの顔を写し出した時には多くの喝采を博した。

最後に本学会の副会長で、日本部会会長を長年にわたり務め、本学会の発展に貢献された山川達郎名誉教授が学会理事に選任された事は大変喜ばしい事であり、またモントリオール2007を大いに盛り上げて下さった日本部会会員の皆様には紙面をお借りし、御礼を申し上げたい。

## 強い味方
### －今日まで，そして明日から

北里大学医学部　外科教授
**渡邊　昌彦**


本年8月26日から30日まで，風光明媚で爽やかな気候に恵まれたカナダはモントリオールにて国際外科学会週間が開催されました．その際に第42回の本学会が北島政樹会長の下，成功裡に終わることができましたことは，私にとりまして大変喜ばしい限りであります．北島会長は2005年にダーバンで開催された第41回大会において会長に就任されて以来，本学会を主導されてこられました．第42回大会の成功は偏に先生のご尽力の賜物に違いありません．この類まれな北島会長の指導力は，不詳の弟子の私にとりまして誇りです．GALA dinnerでの組織委員の各氏を侍にみたてて紹介したご挨拶には，会場が大いに盛り上がりました．このウイットに富んだご挨拶は，先生の真骨頂でありましょう．2011年に横浜で開催される第44回の本学会でも，先生は名誉会長として我々を指導してくださることが決定しており，何よりも心強い限りです．

第44回の日本組織委員会の副会長には，大分大学の北野正剛教授に快くお引き受け頂きました．現在，先生は消化器外科学会理事長として，また来年横浜で開かれる世界内視鏡外科学会の会長として，我が国の外科医を牽引されておられることは衆目の一致するところです．先生は私が最も尊敬する外科医の一人として，長年ご指導を賜ってまいりました．私が地元の会長を仰せつかっても，偉大な副会長が居られることに安堵する次第です．さらに本年から日本支部の事務局は慶應義塾大学外科学教室に移り，北川雄光教授が事務局長に就任されることになりました．北川教授は同門が誇る俊英であり，何よりも心配りの行き届いた傑物であります．北島先生が会長をされた第100回日本外科学会総会の舞台裏を仕切った手腕は，私が大船に乗った気分でいられる所以であります．

今年の総会では，比企能樹先生が名誉会員になられました．比企先生は日本支部事務局長，理事，さらには第41回の副会長を歴任され，30年の長きにわたり本学会の発展に尽くされてこられました．比企先生が名誉会員に推挙されることは，ごく自然の成り行きでありましょう．また先生は母校の同窓会長，さらに北里大学の名誉教授であられ，まさに私の敬愛する名実ともに大先輩であります．

本学会は，世界中から参加される外科医が最先端の研究成果を発表し，議論する場です．第42回大会でも名だたる外科医の講演を直に聴き，身近に接する機会を得ることができました．次々回も出来るだけ大勢の外科医に来日していただき，我が国の外科医と交流を持って欲しいと痛切に感じた次第です．幸い前述いたしましたとおり，力強い味方をつけていただきましたことに，会員の皆様に感謝する次第であります．これから第44回大会に向けて鋭意準備を進めてまいりますが，会員の皆様になお一層のご指導，ご協力を賜りますようお願い申し上げます．

# 名誉会員の盾を戴いて

北里大学名誉教授
ISS/SIC前理事
**比企　能樹**

８月末のカナダは、紅葉が見られないものの、ちょうど良い気候であった。色とりどりのステンドグラスが壁面一杯にはめ込まれた会場のビルディングに向かいながら、これまで開催され、私が参加した各会場を思い起こしていた。

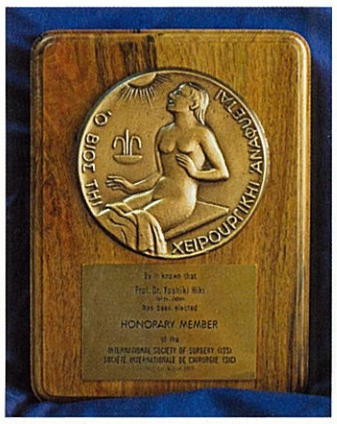
初めてISS/SICの学会に参加したのは、1977年の第27回京都大会での開催であった。まだ若造で、ともかく参加するだけで精一杯だったが、1983年のハンブルグでは少しゆとりも出て、学会会場だけでなく、開会式の華やかなアトラクションや、晩餐会で見る世界のトップクラスの外科医達が寛いで食事をしたりダンスをしたりするのに接し、ここはヨーロッパだと感心したことを思い出す。1987年のシドニー大会には、演題を出した学会閉会後に、1956年第16回メルボルンオリンピックに出場した時、ボートで準決勝まで進んだ思い出の湖に家族も伴ってセンチメンタルジャーニーをした。

1993年、香港大会は、少し様子が変わった。出月康夫教授が理事になられ、私が日本代表に就任したのだが、出月先生から日本誘致の働きをするようにと言われ、プレゼンテーションの準備や会員への日本を宣伝するための配り物と、急遽準備に追われた。その時、当学会のゴッドファーザーであったスイスの Allgöer 教授、後に大きな力を揮うミュンヘンのSiewert教授などと身近に接したが、やはり準備不足の感は否めず、日本開催は実現しなかった。そのとき私は、何としても日本にこの学会を誘致したいと、堅く決心した。

その後の各学会で、もっとも印象に残ったのはやはり100年記念のブラッセル大会であった。1901年に第一回大会が同じこの地で行われ、その後二つの世界大戦を何とか乗り切って、平和の内に多くの国々からの会場溢れるばかりの参加者を迎え、盛大に行われた。

しかしこの学会終了後、僅か半月を置いて、世界を震撼とさせる同時多発テロ、TVの画面で世界津々浦々の人々が、唖然として二つのビルに突っ込む２機の飛行機をみて恐怖の声を上げた。この事件により、世界中がにわかに危険に陥れられたのであった。

次回の1993年のバンコク大会は、SARSウイルスというテロに見舞われ、ついに久方ぶりのアジアにおける大会開催を、断念せざるを得なかった。毎日、毎日多い時には数十通のメールやFax、ついには電話と、スイス本部や当時の首脳部からアジアの情報を聞かれ、相談を受けた。まさにドタキャンになったので、張り切っていたタイの主催者側は本当に大変であったろうし、失望は計り知れなかった。この損益も保険会社と交渉がつき、次のアフリカ大会へつなげることができた。




このあと、2007年モントリオール大会開催の前に、日本代表の山川達郎先生のご尽力により、推挙が決まった。歴代の名誉会員の綺羅星のような外科医各位のリストを見るにつけ、身内が震える思いがする。そして折りしも２代目の日本人会長となられた北島政樹会長から、日本人として４人目の名誉会員の私に、記念の盾をしっかり拝受したことも、限りない幸せであった。

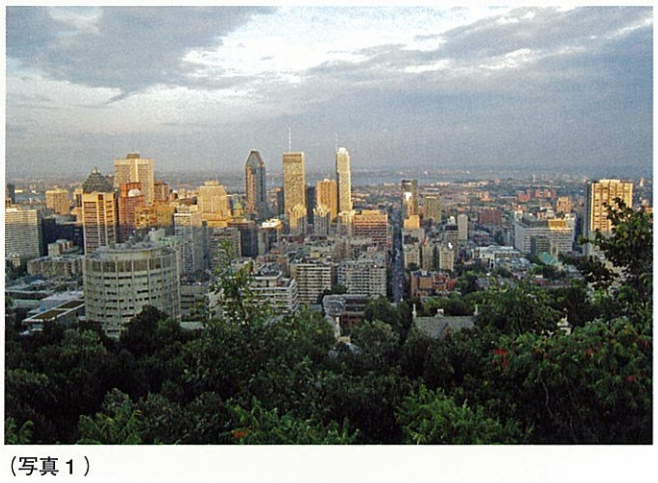
---

# ISW 2007 Montreal 大会印象記と ISS/SIC Executive Councilor Meeting の報告

Councilor, ISS/SIC Executive Committee；
**山川　達郎**

ISW 2007 Montreal 大会前日の2007年８月29日に開催されたISS/SICの総会において、私のISS/SIC Executive Committee の member 就任が承認され、正式にこれからの４年間、Councilorとして活動させていただくこととなりました。私が、このISS/SIC Executive Committee の Councilor に任命されましたのも、President, ISS/SIC 北島政樹教授の絶大なるお力とご支持によるものであり、大変、光栄に存じている次第であります。

今回のMontreal大会の前日に開催されたExecutive Councilor Meetingに初めて出席させていただいて感じたことは、まず、出席の全 Councilor の日本支部会に寄せる信頼感と期待感の大きさであり、北島政樹ISS/SIC会長の国際性豊かなお人柄とここまで Executive Councilor Meeting をまとめられてきた先生のご指導力を改めて認識すると同時に、数々のISS/SICに残された業績の偉大さであります。本当に、私にこの大任を果たすだけの能力があるのであろうか、身の引き締まる思いがいたしました。ここに、北島政樹会長のISS/SICの President としてなされた偉大なるお仕事にISS/SIC日本支部会会員を代表し、Past National Delegateとして心からの感謝と敬意を表するものであります。


（写真１）

さて、ISW 2007は、北島政樹教授をPresidentとして、意義ある素晴らしい学会でありました。また同時に、今後のISS/SICのあるべき道を示唆する学会であった思います。Montreal市はフランス的雰囲気の漂う静かな美しい町（**写真１**）で、落ち着きがあり、会場は、多数の学会を統一するISS/SICの幅広いプログラムをこなすに充分な機能性を有しておりました。

（写真２）

会議に先だち開催された開会式では、まず北島政樹教授が会長としての大任を務められ、また比企能樹北里大学名誉教授が栄誉ある本邦４人目の名誉会員になられました（**写真２**）。日本支部会会員を代表して、お二人の栄誉をたたえたいと存じます。学術会議は８月27日、北島政樹会長によるISS/SIC Presidential Address（**写真３**）とProf. Scheidegger（Switzerland）による Allogöwer Lecture に始まり、10会場に分かれ開催されました。委員会で充分に検討されたプログラムは、テーマが重複するようなことも無く、時間的にも余裕があってスムースに進行していたように思いました。今回のISW 2007の特色は、北島政樹教授が会長であった関係もあって、シンポジストや司会者に多数の日本人会員が指名され、日本支部会会員にとっては、自信につながる会議ではなかったかと思います。

（写真３）

残念であったのは、９月に入って開催されたためもあって、２年前のDubanでのISW 2006の参加者数に及ばなかったことであります。ことに地元の会員の出席が伸びなかったことが大きく問題視されていました。これには、10月に同じ大陸でAmerican College of Surgeons が予定されていたり、また Canadian Association of General Surgery が２週後に予定されていたことなど、計画に細心な気配りと会員に出席を促すための熱意が足りなかったのではないかという声が最終日に行われた Executive/Program Committee Meetingでは反省点として指摘されていました。また高額な参加費も一考を要するという意見もでておりました。

しかしながら、ISS/SICは、General Surgeonとしても重要な内分泌、乳腺

（３面へ続く）

外科、救急医学など幅広い学会を統一する唯一の巨大国際学会であるという特色ある学術集会であることは言をまちません。機関誌 World J. of Surgeryも順調な伸びを示し、今回からInternational Society of Digestive Surgery （ISDS）もISWに参加することが決っているなど Good News があることもあって、Executive/Program Committee は、直ちに今回の反省点を生かして、Adelaide 大会の成功にむけ活動を開始することを決定し、**表1**に示す予定を発表いたしました。会員の諸兄には、シンポジアムのテーマや特別講演者の自薦、他薦を含めたご要望をお寄せいただきたいと思います。そして会員のご意見は、今後のプログラム委員会に生かしていきたいと考えています。各会員のご協力をお願いいたします。

**表1**　International Surgical Week, ISW 2009
September 6~10, 2009, Adelaid, Australia
Important Deadlines
December 31, 2007; Submission of a Preliminary Program including
1）potential topics for lectures and speakers,
2）potential topics for sessions
Beginning March, 2008; Program Committee
March 31, 2008; Submission of
1）full preliminary program and confirmed Speakers and Moderators
2）Full schedule for sessions

写真の説明
1）会長招宴が開催されたParc du Mont-Royal内のChalet de la Montagne から見たMonmteal 市
2）名誉会員になられた比企能樹教授と私
3）Presidential address を行う北島政樹教授

## 第42回 万国外科学会に参加して

慶應義塾大学外科教授
北川　雄光

平成19年8月26－30日、カナダのモントリオールで第42回万国外科学会が開催され、北島政樹会長のもと歴史に残る素晴らしい学術集会となった。北島会長は外科系最古の歴史を誇る本学会の活動に永年ご尽力され、本学会がいかに活性化し、若手外科医にとって魅力的なものにするかについて真剣に取り組んでこられた。そしてこの第42回総会はいよいよ自ら会長をつとめられる記念すべき学会であり、われわれ慶應義塾大学の後輩にとっても特別なInternational Surgical Weekとなったわけである。会長講演は、学会初日メイン会場に参加者一同が集結して行われた。21世紀の外科学のあり方を俯瞰し、方向性を示した北島会長の講演が終わった瞬間、会場は大きな賞賛の拍手に包まれた。私は、2001年ベルギーのブリュッセルで開催された本学会で、北島会長が最も栄えあるGrey Turner Lectureの演者に選出され、講演のあと会場が万雷の拍手に包まれた時の鳥肌が立つような感動を昨日のことの様に思い出した。早いものであれから6年が経過したことになる。今回の学会では日本のNational delegateとして活躍なさった比企能樹先生が名誉会員に推戴され、また、同じくNational delegateとして日本支部会をリードしてこられた山川達郎先生が副会長をおつとめになった。本邦の指導的立場にあられる先生方が世界の頂点でご活躍される姿を拝見することは我々中堅、若手にとっても大きな励みとなりうれしいことである。

一方、本学術集会のあり方について今後に向けた課題も残されたように感じた。今回、北島会長は本学術団体の財政基盤について大変心配され、歴代の会長の中では例を見ないほど資金面での様々な努力をされた。おそらく、前回のSiewert会長の時を遙かに上回る財政援助を行ったものと考えられる。しかしながら、今回の学術集会の登録費は国際学会の基準に照らしてもかなり高額で、日本から参加した若手外科医からの「悲鳴」が聞こえてきた。折角、国際学会に参加したのだから世界の外科医達と交流を深めるべくSocial activityに参加しようとするとさらに高額な参加費を徴収されるという状況であった。会長自らあれだけの財政援助をしたというのに、現地の主催者はどのような努力をしたのだろうか？また、北島会長が計画し、日本の著名な先生方にも講演や司会をお願いした期待のセッションがいつの間にか削除されるケースもあり、お声をかけて参加の準備をしていただいた先生方にご迷惑をおかけしたことがあったのも事実である。

本各術集会は、Presidentと現地主催者の両者の強調が充実して初めて大きな成功につながる。会長一人の努力だけでは困難な部分もあるのが現状である。2011年はいよいよ北里大学　渡邊昌彦教授を現地側会長、大分大学北野正剛教授を副会長に戴いて横浜での開催を迎える。北島会長も「現地、名誉会長」としてご指導、ご支援下さることだろう。日本での開催の折には若手外科医が喜んで参加し、充実感を味わえる素晴らしい学術集会にしたいものである。

## 国際学会の思い出

日本医科大学外科准教授
吉田　寛

私が初めて国際学会で発表をしたのは大学卒業4年目の1990年のことで、Atlantaで開催されたThe Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES)でありました。教室からは私の他に田尻孝助教授（現在日本医大外科主任教授）、山下精彦助教授（現在日本医大常務理事）、矢野正和先生（館山病院外科部長、現在和歌山県で開業）が参加し、自ずと私は添乗員となりました。割高なツアーだったため、先輩方のために張りきって自力でスケジュールを決め格安料金にし、意気揚々と出発しました。

発表の前日に学会会場兼宿泊先のホテルに到着し、自分が発表する予定の会場を下見に行きますと1000名位は入れる大きな会場で、熱いディスカッションが繰り広げられていました。１つの演題が終了すると質問者の行列ができて、質問がなかなか終わりません。また声がホールに響いて聞き取りにくいのも重なって、何を言っているのかわからないのに愕然としました。その日の夜のWelcome Partyでは日本人のテーブルから１人離れて、見知らぬ外国人のテーブルに着席し、周りの人々と積極的に会話をして少しでも耳慣れようと努力しました。私の明日の発表内容を説明し、質問を要求し答えていました。何人もの質問を聞いていると、だんだん質問の傾向がわかってきて自信が出てきたことを覚えています。

翌日、大きな会場の一際高く感じる壇上で発表をしました。Presentationは日本で何度も練習してきたので無難に終わり、さて質問になりますと案の定質問者の列ができました。しかし質問が始まりますと不思議なことに昨日よりも良く聞き取れ、いくつかは無難に切り抜けました。ところがある質問で意味が分からず聞き返してしまいました。その時、最前列で聞いていて（見守っていて）くださった日本医大の先輩である山川達郎先生（現帝京大学名誉教授）から日本語でアドバイスをいただきピンチを脱出できました。

私の演題はNonsurgical treatment for gastric varices - evaluation of endoscopic variceal embolization combined with other angiographic embolizations. でしたが、当時はLaparoscopic cholecystectomyが始まった頃で、演題の半数以上を占めていました。私は会場にあった腹腔鏡デモ機で体験してみましたが、案外操作性が良くcholecystectomyは可能なのではないかと感じたことを覚えています。山川先生は腹腔鏡一式を購入し日本でも始める準備をされていて、後に日本の第一人者になられました。我々も追随し腹腔鏡下手術を導入することができました。

最近も当時と同様に国際学会のPartyでは見知らぬ海外の先生方のテーブルに着席することが多く、本年3月に京都で開催されたアジア肝臓学会(APASL)の会長招宴で同じテーブルに着席した縁で、8月にインドネシアのバリで開催された学会に海外招聘者として講演をさせていただきました。またその縁で他の国々の先生方からも講演依頼をいただいています。

以上のように国際学会では単に発表するだけではなく積極的に海外の方と交流する事により、自分の治療法、治療成績を海外に発信できるチャンスが生まれると考えています。

# 第23回万国外科学会（ISS/SIC）日本支部会議事録

2007年4月12日木曜日　午前7：00～8：30　於：大阪国際会議場

出席者；出月康夫　冲永功太　掛川暉夫　掛地吉弘　北島政樹
真田　裕　砂川正勝　田尻　孝　田中雅夫　千々岩一男
中尾昭公　梨本　篤　比企能樹　広瀬宣明　前田耕太郎
真船健一　矢永勝彦　渡邊昌彦

（敬称略；五十音順）

事務局；山川達郎　駒ヶ嶺さゆみ

## 議　事　録

1. 支部長挨拶；山川達郎
2. 万国外科学会会長挨拶；北島政樹
   1）万国外科学会　ISW 2007, Montreal大会準備状況
   2）Executive Council Meeting 報告
      (1) 比企能樹教授、ISS/SIC; Honorary Member に決定の件
      (2) 山川達郎教授、ISW 2007, Vice President 就任
      ISS/SIC; Council Member 推薦の件
      (3) 北川雄光教授、ISS/SIC 日本支部長（National Delegate）推薦の件
      (4) 渡邊昌彦教授、ISW 2011, Local Organizing Committee会長推薦の件
3. 第22回万国外科学会日本支部会議事録承認の件
4. 万国外科学会日本支部会会員動向（表１）報告　事務局
5. 2006年万国外科学会日本支部会会計報告（表2）ならびに監査報告
   ；田中雅夫教授
6. Integrated Societies 報告
7. 機関誌World J. of Surgery報告
8. その他；連絡事項
   1）会費；年会費；Eur. 135.00 (include; subscription fee of World J. Surgery)
   Eur. 40.00 (Chapter Assessment)
   2）Membership application system の変更；on-lineにて可能
   （詳細；ISS/SIC Home page 参照）

（山川達郎 記）

*International Society of Surgery (ISS)*
*Société Internationale de Chirurgie (SIC)*

***Administrative Office ISS/SIC***
*Netzibodenstrasse 34*
*P.O. Box 1527*
*CH-4133 Pratteln*
*Switzerland*
*Phone: +41 61 815 96 66*
*Fax: +41 61 811 47 75*

***E-Mail address:***
*surgery@iss-sic.ch*

***www-home page:***
*http://www.iss-sic.ch*

Tatsuo **Yamakawa**, MD, FACS
Dept. of Surgery
Mizonokuchi Hosp.,Teikyo Univ.
3-8-3 Mizonokuchi, Takatsu-Ku
JP- Kawasaki 213-8507
Japan

Pratteln, October 18, 2007

### ISS/SIC Invoices 2008 & 2009 Membership dues

Dear Prof. Yamakawa

We are planning to send out the invoices for the ISS/SIC Membership dues 2008 at the end of November 2007.

According to the General Assembly at ISW 2007 the basic amount for the Annual **ISS/SIC Dues for the years 2008 & 2009 remains** at

**USD 135.00(for USA, Canada and Mexico) respectively**
**EUR 135.00 (for all other countries)**
**USD / EUR 67.50 for members below age 35 (half of the Dues)**

including the subscription of World Journal of Surgery.

- The **integrated Societies of the ISS/SIC** have charged the following amount for their membership in 2007:

| Integrated Society | Assessment |
|---|---|
| IAES | USD / EUR 22.00 |
| IATSIC | USD / EUR 22.00 |
| IASMEN | USD / EUR 22.00 |
| BSI | USD / EUR 25.00 |

- The **following ISS/SIC Country Chapters** have charged the following amount for their membership in 2007:

| Country Chapters | Assessment |
|---|---|
| Japan | EUR 40.00 |
| USA | USD 60.00 (35.00 Chapter Assessment & 25.00 for ISS Foundation) |
| France | EUR 36.00 |
| Australia | EUR 22.00 |

As usual we will include the amount in our Membership Invoices as listed above for the next 2 years. Should your Society or Chapter have decided to change the assessment, please inform us of any corrections or comments at the latest by end of October 2007.

Please be informed that IASMEN has already confirmed that their Chapter Assessment remains at EUR/USD 22.00 until the year 2009.

We look forward to hearing from you soon, and remain with best regards.

Yours sincerely,

Chris Storz
Asst. Administrative Director ISS/SIC